

2025 年度
全学統一入学試験

国 語

【 注 意 事 項 】

- (1) 試験監督の指示があるまでは、問題冊子を開いてはいけません。
- (2) 解答時間は 60 分です。
- (3) この問題冊子は 19 ページ、問題は【一】から【二】までです。
- (4) 解答用紙は 1 枚です。
- (5) 乱丁・落丁、印刷不鮮明などがある場合、手を挙げて試験監督に申し出なさい。
- (6) 解答用紙には、必ず受験番号・氏名を正確に記入し、受験番号マーク欄にも受験番号を正確にマークしなさい。
- (7) 解答はすべて別紙の解答用紙の所定欄にマークしなさい。
- (8) 試験開始から終了までの間は、試験教室から退出できません。
- (9) 問題冊子および解答用紙は室外に持ち出してはいけません。

【一】次の文章を読んで、あとの設問に答えなさい。なお、設問の都合で本文の段落に①～⑥の番号を付してある。

① 生物特有の「内側からの観察」というネオ・サイバネティクスの思想を体现するアプローチは「サイバネティック・パラダイム」と呼ばれる。一方、これと対比されるのは「コンピューティング・パラダイム（情報処理パラダイム）」である。これはウィーナーのライバルであり、現行コンピュータの原型を設計した数学者ジョン・フォン・ノイマンを^{（注1）}シンとするものだ。コンピューティング・パラダイムは、外側から対象を精確に観察記述し、万事をデジタルなデータの計算に帰着させるアプローチであり、コンピュータ技術の発展とともに情報技術の中核をなすようになった。現行のAI・ロボット研究もコンピューティング・パラダイムにしたがっている。

② コンピューティング・パラダイムの重要性や有効性については述べるまでもない。だが、人間とコミュニケーションするといったAI・ロボットのアプリケーションにおいては、これだけでなく、サイバネティック・パラダイムをも組み合わせていくことがどうしても不可欠となってくる。さもないと、人間は単なるデータ処理機械に格下げされ、残酷な抑圧が出現してしまうからだ。^A両者の組み合わせはいかにして可能になるだろうか。

③ 実は、当初のサイバネティクスはコンピューティング・パラダイムの強い影響のもとにあり、外側からの視点も残存していた。ウィーナーの議論にはいわゆる情報処理に関する記述も多々あり、そこでは生物が

^{（注2）}開放系と見なされているのである。「サイボーグ」とか「サイバー空間」といった用語はこの流れから来ている。

④ 内側からの観察という点をジュンスイ^{（注3）}に追求したシステム論は、物理学者ハインツ・フォン・フェルスターによって定式化され、この影響のもとに一九七〇―八〇年代にオートポイエーシス論^{（注4）}を代表格とするネオ・サイバネティクスの思想が誕生した。これは顕著な功績だったが、同時に、大きな問題点を抱え込むことになった。ポイントはサイバネティック・パラダイムが前提とする「閉鎖性」という特徴である。

⑤ 情報という概念は、工学的には開放系を前提としている。閉鎖系同士のあいだで、いかにして情報は伝達されるのだろうか？ また、個人の心が閉鎖系だとすれば、社会のコミュニケーションはどう定式化することができ、それと個々の心はどう関係づけられるのだろうか？——実際、オートポイエーシス理論^{（注5）}においては、情報という概念は基本的に排除されている。また、ニクラス・ルーマン^{（注6）}の機能的分化社会理論においては、社会システムは閉じており、オートポイエーシクに社会的なコミュニケーションを産出するのだが、個々の人々の心はそれぞれシステムとして独立しており、社会システムと直接つながっているわけではない。

⑥ こうして、情報社会において理論的に巨大な問題が生じた。機械内部や機械同士の通信・制御なら、開放系を前提としたシャノンの情報理論とコンピューティング・パラダイムで十分だろう。だが、AI・ロボットの応用分野のように、そこに閉鎖系である人間のコミュニケーション^{（注7）}が絡んでくると、どうしてもサイバネティック・パラダイムにも

とづく分析を導入し両者を組み合わせていかなくはならない。具体的にはチャットボットと人間との会話や、機械翻訳を想起すれば明らかだろう。コンピュータはプログラムにしたがって文章中の記号を形式的に処理するだけだが、人間は時々刻々、新たに意味解釈をおこなうため、どうしてもギャップができ、不具合が生じることになってしまう。

⑦ われわれが構築している基礎情報学は、サイバネティック・パラダイムのもとでこの巨大な問題の解決をめざし、さまざまな課題と取り組んでいる。ここではカンケツ^(ウ)にその骨子だけを述べる。まず、「情報^B」という概念のとらえ直しをおこなわなくてはならない。これが第一のポイントである。情報の定義は種々あるが、基礎情報学では情報を三つに分類する。もとも根源的なのは「生命情報」であり、これは、生物によってオートポイエティックに創出される、意味をもつ広義の情報のことだ。閉鎖系内部で産出されるので、生命情報を直接他の閉鎖系に伝えることはできない。伝達のために記号化をおこない、生命情報を共通の記号で表現したのが「社会情報」だ。これが言葉や合図などの、いわゆる狭義の情報である。ついで、社会情報を時間空間をまたいで効率よく流通させるために、最狭義の情報である「機械情報」が用いられる。機械情報というとコンピュータで処理できるデジタルなデータが典型的だが、数千年前につくられた文字も機械情報の一種に他ならない。

⑧ たとえば、胃腸の「痛み」を感じる時、それ自体は生命情報で、内側から観察されるものである。だが、医師の診察をうけて「昨日食べたもののせいかな、お腹がしくしく痛むんです」と言うなら、それは（近似的にせよ）意味を伝えるための社会情報である。そして医師が「食中

毒」と診断し、パソコンで患者用のカルテのデータを入力するとき、そこで機械情報が出現するのである（「食中毒」はJIS16進^(注7)コードで「3F29 4366 4647」）。ある町で食中毒が多発しているなら、そのデータはAIのプログラムなどで統計的にコンピュータ処理されるかもしれない。ただし、「生存」という生き物の目的と一体なのが「意味」だから、AIは食中毒の「意味」を本質的に理解しているわけではまったくないのだ。

⑨ このように、情報というものは本来、閉鎖系のみで発生するものであり、開放系である機械はその一部を形式的に処理するだけである。機械情報のみを「情報」と見なすとき、この重要な点^(エ)がカンカされ、人間は一種の機械部品と化してしまうのである。AI・ロボットの活用においては、必ずこのことに留意しなくてはならない。

⑩ 第二のポイントは、個人の心的システムと個人が属する社会システムとの関連づけである。個々の心は閉じており、本質的に自律的だが、同時に社会的な制約を受けていることに気づくことが肝心である。社会的な制約のもとでわれわれの思考活動がおこなわれていることは述べるまでもないだろう。法律はむろんだが、そもそも言語自体が文法や語彙といった秩序体系をもっており、大きな潜在的制約となっている。原理的には人間はどんなことでも自律的に思考可能だが、社会的制約を守らなければ、事実上われわれは社会生活を送れない。社会的制約が、社会システムのコミュニケーションを成立させ、また閉鎖系同士での疑似的な意味伝達つまり社会情報の交換を可能にしているのである。

⑪ この点を明確化するために、基礎情報学では閉鎖性と開放性の理論

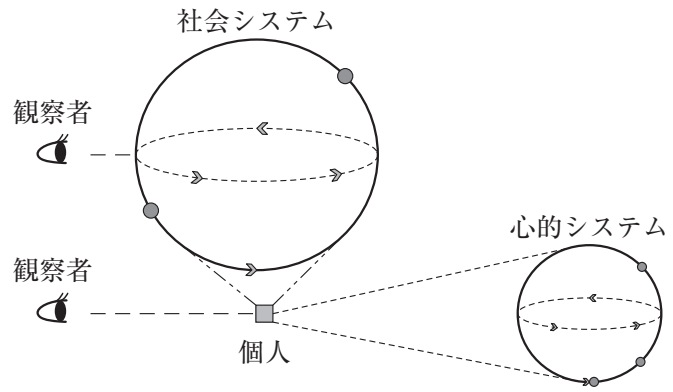


図 HAC Sによる視点移動

考はあくまで自律的（オートポイエティック）に産出される。一方、視点を社会システムに移すと、そこでは社会構成員の発する社会情報を素材としてコミュニケーションが自律的（オートポイエティック）に産出される。肝心なのは、このとき、社会の視点から見ると、個々の社会構成員の心は一定の制約にしたがう他律的（アロポイエティック）なものと化す、という点なのだ。このようなシステムを基礎情報学では「階層的自律コミュニケーション・システムHACS」と呼ぶ。これはいわゆるオートポイエティック・システムの理論的拡張になっている（図）。

⑫ たとえば、企業と社員を考えると、社員は心中では何でも考えられるが、会社の会議では通常、議題に関する一定の枠内の文脈での発言し

（オ）的なカキヨウを試みる。具体的に、あるオートポイエティック・システムAの作動の結果をいわば素材として、別のオートポイエティック・システムBが作動するとき、「AはBの下位にある」という階層関係を導入するのである。たとえば、個人の心的システムは社会というシステムの下位にある、ということになる。重要なのは、ここで視点移動という操作がおこなわれることだ。視点が個人の心的システムにあるとき、個人の思

かおこなわない。つまり、企業が課する制約が、コミュニケーション（疑似的な情報伝達）をもたらしているのだ。

⑬ 基礎情報学はネオ・サイバネティクスの一環だが、このHACSという階層的なモデルは、AI時代の倫理道徳を考察するとき、きわめて有効である。というのは、社会システムの視点に立つとき、他律的（アロポイエティック）なAI・ロボットも、本来は自律的（オートポイエティック）な人間と近似的に同格となるからだ。ここに、サイバネティック・パラダイムとコンピューティング・パラダイムという二つのパラダイムを相互作用していく方途が見えてくる。

⑭ ただし、このアプローチで倫理道徳を考えると、きわめて注意しなくてはならない点がある。個人の道徳心は社会的な倫理規範という制約のもとにある。だがそれは必ずしも静的・構造的な関係ではない。短期的には社員の心的システム（下位）は企業という社会システム（上位）の倫理規範という制約にしたがわなくてはならないが、もしそれが（厳しすぎる職場の服装強制など）著しく不合理だと判断される場合、長期的には、倫理規範をボトムアップで動的に変えていくことも可能なのである。AI・ロボットは人間とちがって個別の自律的な道徳心をもたないので、こういうことは不可能だ。とはいえ、AI・ロボットがエージェントとして企業のコミュニケーションに参加し、構成員の道徳心や倫理規範に間接的に影響をあたえることはできる。とりわけ、インターネットのなかでAIエージェントは大きな影響力をもちうるので、この点は今後、重要な議論となってくるだろう。

⑮ 大切なポイントは自由意思である。前述の郡司の天然知能論におい

ては、自由意思はもっぱら個人の心（意識）のレベルでとらえられている。だが人間の自由意思は多くの場合、社会的制約に抵触しつつも個人が自分の道徳心や価値観をつらぬくべきか、という局面で問われることが多い。こういう問題を議論する際には、社会と心にまたがる基礎情報学のHACSモデルが効果を発揮するのである。

⑯ AIなど開放系のみを扱うコンピューティング・パラダイムのもとでは、右のような議論は不可能なことを強調しておこう。^{(V)ふかん}俯瞰的な観点からみれば、明示化された対象群、そしてそれらを統御する秩序ルール以外は認められない。つまり、法律などの社会的メカニズムも脳神経メカニズムも、原理的には同一の倫理空間に写像されるので、社会と心にまたがる自由意思の機制など雲散霧消してしまうのだ。

（西垣通「人新世におけるAI・ロボット」による）

（注1）ネオ・サイバネティクス——アメリカの数学者ウィーナー（一八九四～一九六四）が提唱した、生物及び機械における制御・通信・情報処理などについて、両者を区別せず統一的に扱うサイバネティクスをさらに発展させた学問。人間を含む生命体が自らの主観的な世界をいかに構成していくのかに関して、生物学のみならず社会学や心理学など他分野からの視点を取り入れた学際的な分野。

（注2）開放系——外界とエネルギーや物質の交換をすることが前提にあるシステム。逆に閉鎖系は外界との交換を前提としないシステム。

（注3）オートポイエーシス論——チリの生物学者ウンベルト・マトウラーナ（一九二八～二〇二一）とフランシスコ・バレラ（一九四六～二〇〇一）が提唱した、生命内部の神経システムなどの有機的な構成に関する理論。細胞や神経系などが、自分自身を再生産するシステムを反復することで、自律的に秩序が生成されるプロセスを主張する。

（注4）ニクラス・ルーマンの機能的分化社会理論——ドイツの社会学者ニクラス・ルーマン（一九二七～一九九八）が主張した理論。機能的分化社会理論においては、法や経済など、特定の分野の中で用いられる用語の用い方やコミュニケーションの仕方によって、相互に独立した機能システムが形成されると見なされる。

（注5）シャノン——アメリカの数学者（一九一六～二〇〇一）。

（注6）チャットボット——チャットなどにおいて、自動応答を行うプログラム。

（注7）JIS16進コード——日本工業規格（JIS）が制定した情報交換用符号。英数字やカタカナなどは8進法で表し、漢字は16進法で表す。

（注8）郡司の天然知能論——日本の数理生物学者である郡司ベギオ幸夫（一九五九～）が提唱した、生物の進化における理論。生物が進化するためには、その過程において予想しなかった外的要因を受け入れ、当初準備していた機能とは異なる機能を実現する自由さが必要であるとする。

* 問題作成の都合により、本文の一部に手を加えている。

問1 傍線部(ア)～(オ)に相当する漢字を含むものを、各群の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は

5

1

(ア) シソ

1

- ① ソゼイを徴収する
- ② 適切なソチを講ずる
- ③ 家系図でガンソを調べる
- ④ 全力で連敗をソシする
- ⑤ ソアクな模造品

(イ) ジュンスイ

2

- ① 極端な思想をコスイする
- ② 任務をカンスイする
- ③ スイトウボに記入する
- ④ 盛者ヒツスイのことわり
- ⑤ 文献から一部バツスイする

(ウ) カンケツ

3

- ① 身のケツパクを証明する
- ② シンケツをそそぐ覚悟だ
- ③ ケツソクを固める
- ④ ケツキして反乱を起こす
- ⑤ ケツシュツした才能

(エ) カンカ

4

- ① カンゲンにだまされる
- ② 患者をカンビヨウする
- ③ カンタン相照らす
- ④ カンセイな住宅街
- ⑤ 洪水で田畑がカンスイする

(オ) カキョウ

5

- ① カレツな叱責を受ける
- ② 物語がカキョウを迎える
- ③ ニユースのカチユウの人物
- ④ カクウの物語にすぎない
- ⑤ ザツカ店を経営する

問2 傍線部(i)～(v)の本文中における意味としてもっとも適切なものを、各群の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答

番号は

6

 ～

10

。

(i) 「顕著な」

6

- ① 非凡で独創的な
- ② 前例が少ない
- ③ 大変素晴らしい
- ④ 模倣の困難な
- ⑤ 際立って目立つ

(ii) 「典型的」

7

- ① あらゆる対象に該当する
- ② 恰好かっこうな例と見なし得る
- ③ 手本として参照すべき
- ④ 型どおりでありふれた
- ⑤ 印象が強く知名度もある

(iii) 「方途」

8

- ① 必要不可欠な過程
- ② 将来的な展望
- ③ 計算上の青写真
- ④ 解決のための道筋
- ⑤ 大まかな方向性

(iv) 「ボトムアップ」

9

- ① 下限値の上昇を目指すこと
- ② 下層と上層が逆転すること
- ③ 下位の者から促されること
- ④ 下達が滑らかに進むこと
- ⑤ 下落傾向をくい止めること

(v) 「俯瞰的な」

10

- ① 広域な視野で客観的に考えた
- ② 先人たちの知識を踏まえた
- ③ 半ば楽観的な視点で捉えた
- ④ 利害関係を度外視した冷静な
- ⑤ 長期的に構え未来に期待する

問3 傍線部A「両者の組み合わせはいかにして可能になるだろうか」とあるが、本文③段落から⑥段落において、筆者はどのように考察しているか。その説明としてもっとも適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 11。

① サイバネティック・パラダイムはコンピューティング・パラダイムの影響を受けており、サイバネティック・パラダイムを前提とする生物は開放系を特徴の一つとして備えているため、両者の結合に際して不都合はない。

② コンピューティング・パラダイムは開放系を前提とするため、機械同士の通信や制御は容易であるが、内部で完結し、絶えず解釈の変更を行う人間のようなサイバネティック・パラダイムとの連携や意思疎通は容易ではない。

③ サイバネティック・パラダイムは閉鎖性を前提とするため、個々の心は社会システムという閉鎖的な枠組みの中でしか生成・変化され得ず、コンピューティング・システムのような開放系の仕組みとは相いれない。

④ 人間のコミュニケーションに代表されるサイバネティック・パラダイムは短期間で様式が変化してしまうため、一度設計された後のシステム変更を前提としないコンピューティング・パラダイムとは両立し得ない。

⑤ 閉鎖系を前提とする個人の心は情報の伝達が容易ではなく、開放系を前提とする社会システムの中でのコミュニケーションが成立し得ないという例に代表されるように、二つのパラダイムの協力は困難と言える。

問4 傍線部B「『情報』という概念のとらえ直しをおこなわなくてはならない」とあるが、これはどのようなことか。その説明としてもっとも適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 12。

① 「情報」をコンピュータなどで用いられる機械情報に限定せず、より閉鎖系の内部に近い情報である生命情報や社会情報も「情報」の概念を構成するものとして認識しなくてはならないということ。

② 閉鎖系の内部で発生した「情報」をサイバネティック・パラダイムに基づいて分析するためには、時間空間を越えて広域への流通が可能な社会情報にすべて変換することが不可避であるということ。

③ 「情報」の本質は閉鎖系の内部から発せられる生命情報や、共通記号で表現された社会情報に内在するため、それらをデータ化して統計的に処理することは倫理的に問題があるということ。

④ 個人の心や体内で生成された「情報」は主観的で曖昧なものであるため、共通の記号で合理的に表現された社会情報や、デジタル処理された機械情報などに精錬されなくてはならないということ。

⑤ 「情報」は本来閉鎖系の内部で産出されるものであり、パソコン上で機械情報に処理・変換することで事実がゆがめられる可能性があるので、それらを信用してはならないということ。

問5 傍線部C「このアプローチで倫理道德を考えると、きわめて注意しなくてはならない点がある」とあるが、これはどのようなことか。その説明としてもっとも適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 13。

- ① 人間の自由意思はたとえ社会的制約に抵触してでも自分の道徳心や価値観を貫こうとする可能性があるが、HACSシステムは常に上位の秩序ルールが優先されるという想定を堅持するため、システムの有効性に乏しいということ。
- ② HACSのモデルにおいては「AはBの下位にある」という前提で個人の思考が扱われ、自由意思が倫理道德などの一定の制約に縛られると見なされるが、実際には自由意思は上位の秩序を容易に乗り越えてしまう傾向を有するということ。
- ③ 基礎情報学ではHACSのモデルが人間とコンピュータ・パラダイムの相互作用を説明する有効なシステムであると見なされているが、現実社会では自由意思が倫理道德などの秩序ルールに働きかける機会はほとんどないということ。
- ④ HACSを用いた考察において、人間社会の場合は自由意思が倫理道德などの上位システムの変更を導く可能性があるが、コンピュータ・パラダイムの場合はAIの自律性が想定されており、人間の自由意思が秩序に反映されないということ。
- ⑤ HACSのモデルにおいては上位と下位の区別に基づく階層的なシステムが想定されているが、コンピュータ・パラダイムにおいては自由意思も倫理道德などの上位システムも同一次元で扱われるため、統一的な秩序は成立しないということ。

問6 本文⑩段落から⑬段落の内容、および図からはどのようなことを読み取ることができるか。その説明としてもっとも適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 14。

- ① HACSは、個人が思考を形成する際に二種類のシステムが用いられ、視点移動を繰り返すことで双方のシステムの利点を折衷させながらより高次の思考が産出される、と想定していることが読み取れる。
- ② HACSは、社会システムのみを思考形成の素材とする者と、心的システムのみで思考形成を行う者という二人の観察者の間で行われる相互作用が情報伝達の原因である、と想定していることが読み取れる。
- ③ HACSにおいては、個人の心的システムは自律的に産出されるが、それは上位にある社会システムの制約を経由した後のことであるため、システムの階層関係が想定されている、ということが読み取れる。
- ④ HACSにおいては、下位にある個人の心的システムの集積によって上位の社会システムが形成されると考えられており、個々の心的システムを分析することが社会システムの解明につながる、ということが読み取れる。
- ⑤ HACSにおいては、個々の心的システムは上位に位置する社会システムの制約を免れることができず、心的システムを自律的なものと考えるのは誤りである、と想定されていることが読み取れる。

問7 この文章の構造に関する説明としてもっとも適切なものを、次の

①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 15。

① ①から③段落では、本文全体のテーマとなる二つのパラダイムを二項対立の構図に沿って紹介しつつも、両者の共通点を模索するための手段について考察することを重要な問いとして据えている。

② ④から⑥段落では、人間の心に代表されるサイバネティック・パラダイムがコンピューティング・パラダイムの流動的な意味解釈システムとの共存が難しい点を訴え、次段落以降の展開を導いている。

③ ⑦から⑨段落では、基礎情報学では「情報」が三種類に分類されることを紹介し、「胃腸の痛み」を例として挙げながら、「情報」が伝達する側の視点によって、強調される側面が変化することを述べている。

④ ⑩から⑬段落では、システムの間に階層関係を導入するHACSを紹介することで、本文前半で提示された課題の解決が可能であることを示すとともに、前向きな展望が記述される結論部分へと導いている。

⑤ ⑭から⑯段落では、開放系を扱うコンピューティング・パラダイムに対してHACSモデルを適用することは困難であることを示し、本文全体を通して考察されてきた試みが一筋縄ではいかな

いことを説明している。

問8 次のa～eの中で、本文の内容に合致するものには①を、合致しないものには②を、それぞれマークしなさい。解答番号は

16 20。

a 近年模索されている人間とAI・ロボットとの円滑な意思疎通を実現するためには、コンピューティング・パラダイムとサイバネティック・パラダイムとの協働が不可欠である。 16

b 従来のサイバネティクスにおいてはコンピューティング・パラダイムとの有機的な結合が成功しており、「サイボーグ」や「サイバー空間」は実用化されるまで開発が進んでいる。 17

c オートポイエシス理論においては、個々の人間の心は閉鎖系であると想定されており、各個が独立したシステムを形成しているため、情報という概念は排除されている。 18

d 基礎情報学の「情報」分類に従うと、痛みという生命情報を「食中毒」という社会情報に変換することで医師がカルテを作成し、最終的にコンピュータ処理された機械情報へと変換される。

19

e AI時代の倫理道徳について考察していくと、AIも自律的に個別の道徳心を形成し、場合によっては上位の倫理規範に提言を行ったり逆らったりするようなシステムの実現可能性が見えてくる。 20

【二】次の文章を読んで、あとの設問に答えなさい。なお、設問の都合で本文の段落に①～②②の番号を付してある。

① 先に倫理は法律と区別されていなかったと述べたが、そこから分かるように、「法律か倫理か」という問いは決して古いものではない。

② 法律に、倫理とは区別される独自の論理があると意識されるようになるのは、一八世紀、近代法学の父と呼ばれるベンタム^(注1)の法哲学によってである。ベンタムは道徳的サンクション^(注2)と法律的サンクションを明確に区別し、法律を倫理から切り離して、社会の幸福量を最大化させる道具とみなした。かれによると、国民は倫理的には個人の自由において行為としてよいが、最大幸福原理のもとで制定された法律に従っていさえずれば、社会は秩序あるものとなるのである。しばしば誤解されているが、社会全体の幸福を増大させるように自分の行為を決定することは、義務として求められてはいない。

③ それ以前は、古今東西において、法律と倫理は、それぞれが対立するほどの明晰な概念でも領野でもなかった。法律は、とりわけ慣習法や自然法において倫理を含んでいた。行為や秩序について考察される必要のあったところではどこでも、その考察の主題は倫理であったともいえる。およそ四千年前の『ハンムラビ法典』に「眼には眼を」という規定があり、それは法律の原型のようにも見えるにせよ、しかし現代でも「倍返しだ」などという言葉が流行するように、それに似た倫理観で生きているひとも多い。報復感情も倫理的なもののひとつであり、それを抑えるべきとする思考もまた倫理的なものである。

④ しかし、一八世紀の西欧において、人々の行為を動機づける文脈や状況が整理され、宗教や政治や経済や法律が倫理から区別されるようになり、それに伴って倫理学の対象もそれ以前とは異なったものとなった。とりわけ法律と入り混じった意味あい^Aが排除されるようになった。実際には、いまだに法律に倫理が混入している事例は多いし、倫理を含ませようとする政治家も多いが、多くのひとは、法律の規定する行為がそのまま倫理的な行為であるとは考えてはいない。今日、倫理という語は、こうした歴史的な文脈のなかにある。

⑤ なお、「善悪正邪」という表現に含まれるように、正義が倫理的概念とみなされることが多いが、それは理想の法律において実現されるべき裁定のことを指している。しばしば裁判に正義がないとされるのは、法律が正しく適用されていないという場合もあれば、その法律が悪法であるという場合もある。理想の法律とはどのようなものかといえば、法律が国会という場で決定されるようになってくる現代においては、民主主義的手続きによって決定されたものであるということになる。

⑥ しかし、法律と倫理を区別せず、法律をよく知らないままに倫理的な善悪がそのまま法律に反映されていくべきだと想像する人々にとっては、正義とは、悪を^アこらしめ善をもたらし、いわば水戸黄門や大岡越前の裁定の類のものである。そのような裁定は、権力が司法に直接介入するという意味で現代では不正なものであり、実際にも、そうした正義感で行動するひとたちの生み出す悪は多い。

⑦ 倫理の位置づけについての以上のような事情に加え、二〇世紀後半、アメリカから「応用倫理」^Bという観点^Cが導入されて、倫理という語の意

味に新たなイメージが付け加えられた。

⑧ 倫理学における道徳の研究が廃れがちであったところに、特定の現場ないし領域で生じてきた難問（アポリア）に対して「応用」されるべきものとして倫理が再発見されたのであった。そこでは、新たな技術や社会状況における、法律の制定が追いつかない事象や、状況のバリエーションが大きくて法律を制定し難い事象に対して、善悪の基準を設けることが目指された。

⑨ 応用倫理のひとつとしてよく知られているのは「生命倫理」である。医療の現場で脳死判定や人工授精のような新たな技術が使用されるようになり、心臓が動き呼吸をしているのに意識が戻らないことや、人為的に精子と卵子が結合されて産まれてくるひとが出現した。死や生についての伝統的な、宗教や政治や経済が入り混じっていた考え方に納まりきれないこうした出来事に対して、創出すべき倫理があるとされたのであった。宗教に対しては中立的で、そして経済的ないし政治的な利害や効率に還元されるべきでない一人ひとりの判断の基準を与えるものが必要とされたのである。

⑩ とはいえ、それでも宗教からは切り離し難い論争も多い。たとえば、人工妊娠中絶におけるプロライフ（赤ん坊が産まれることの優先）の主張は、神によって生命が与えられるとするキリスト教信仰を背景としてい。それに対立するプロチョイス（産む女性の選択の優先）が前提する人権概念も、キリスト教信仰とまったく無関係であるともいえないのである。それゆえにこそ、とりわけアメリカ政治における大きな争点となっている。

⑪ その後、生命倫理と同様にして、時代の変化によって新たに生じてきた出来事に対するいくつもの応用倫理が説かれるようになっていった。地球温暖化や生物多様性などについての環境倫理、営利活動についてのビジネス倫理、技術の利用についての技術者倫理、特に最近ではIT技術の発展に対応すべきAI倫理などである。

⑫ これら応用倫理の議論をふまえて、これまで、関係者相互の合意や手続きの取決めなどについての法律の制定がなされてきた。だが、しかし実態としては、そこで起こった論争の大部分に、いまだ決着がついていない。水掛け論や千日手のような議論の行詰まりが生じている。それらは、当初は何らかの規範を与えようとして「倫理」と呼ばれたのだったが、いまは кейソウ 中の議論そのもの、それらが主題とする問題状況そのものを指して「倫理」と呼ばれることもある。

⑬ なぜ論争に決着がつかないのであろうか。応用すべき多様な倫理学説が相互に対立しているからであらうか。しかし、それだけではない。そこで論じられていることに、必ずしも倫理学説が「応用」されなかったからなのである。

⑭ というのも、応用倫理における議論は、しばしば法律の整備を進めるためのものであり、その議論に参入するのが、当該現場における職業従事者や利害関係者、およびそこでの紛争を चौウテイ しようとする法律の専門家たちであって、かれらには、倫理学説に参照することなく「自分の胸に手を当てて」善悪を判断することで差し支えないとする傾向があった。

⑮ そう、従来からひとは、倫理はといえば、自分の胸に手を当てて少

し考えてみれば答えの出せる、そうした善悪の判断基準であるとなんしてきたのであった。なぜ胸に手を当てるのか。それは、そこに心臓、つまり「ハート」があつて、ハートこそは「良心」を喚起する器官であると信じられてきたからであろう。

⑮ そもそも良心とは、西欧では「神の声」のことである。キリスト教の教義（ドグマ）のもとで下す判断は、その信徒たちにとっては真実である。「真実」という概念がそこに由来する。その意味では絶対のものであるが、キリスト教徒ではない多くの日本人にとっては、良心とはただ幼少時に周囲から言い聞かされたことを思い出すこと、あるいは現在の周囲の人々のさまざまな思惑を忖度することではないであろう。裁判官が憲法七六条三項によって「良心にのみ従つて」判決を下すとは、法体系にのっとっていることをしか意味していない。

⑯ しかし、宗教的背景がないにしても、いわゆる「良心に従つた判断」は、単なる個人的主観的なものと決めつけられるものでもなく、その社会で伝統的に育まれてきた善悪観ないし善悪感情を背景としており、しばしば多くのひとを納得させることができる。これらを、理論的な裏づけがないということだけをもつて否定するべきではないであろう。

⑰ 倫理学において、しばしば「道徳感情」や「道徳的直観」という概念が提示されてきたのは、善悪の定義以前に、人々のあいだにすでに判断の根拠のようなものがあつて、それを無視しては倫理学が成り立たないと考えられてきたからである。

⑱ その意味で、胸に手を当てるだけだけのタイプの善悪の判断が無価値であるというわけではない。^(注6) デカルトは『方法序説』において、「人間はみな良識を持つ」と述べている。のちに理性と解釈されるこの

「良識」は、原語が「ボン・サンス（善い感覚）」である。だれもが努力して知識を増やし、状況をふまえ、根拠のもとに判断するという「期待」であつたともいえる。

⑲ 感覚は経験において起こるものに過ぎず、時代や社会によって容易に変化するものである以上、真の根拠とはいえない。しかも、そこで善悪が意識されるのは、逆説的であるが、規範を含んでいる宗教や政治や経済や法律、および既存の道徳やモラルに対抗してであることも多い。応用倫理の議論が水掛け論になりがちなのは、いずれかの立場のひとが論理的ではないからというより、その前提となる生の捉え方が異なっているからなのである。

⑳ 脳死に関する論争は、わが国では「臓器移植法」^(注7) となつて一応の決着を見たが、しかし、そののちにも、現場に立ち会う人々のあいだで、相変わらず判断はためらわれている。心臓移植の実績はいまだ多くはない。それは、シヨミン^(注8) が無知だからではない。法律とは異なるものとしての倫理から離れてしまうことがないからなのである。

㉑ 倫理は、議論によって何らかの規範として定めようとしても、それぞれのひとが生まれ育つたなかで獲得してきた善悪の基準に依拠し続ける。それに^(注9) 対^(注10) ウしない規範は、制定されたとしても、早晩^(注11) なし崩しにされてしまふに違いない。とはいえ伝統的な倫理に準じているだけでは、次の世代や別の地域の人々からは受け容れ^(注12) 難いものとなつていく。規範の根拠や合理性を検討するばかりではなく、そうしたものとしての倫理を見失わないように努めるべきであろう。

（船木亨『倫理学原論——直感的善悪と学問の憂鬱なすれちがい』による）

(注1) ベンタム——イギリスの哲学者・経済学者・法学者（一七四八～一八三二）。

(注2) サンクション——社会的規範から外れた行為に対して加えられる制裁。

(注3) 倍返しだ——池井戸潤（一九六三～）が執筆した「半沢直樹シリーズ」と呼ばれる一連の小説に登場する台詞。「半沢直樹」は二〇一三年にテレビドラマ化され、「倍返しだ」は同年の流行語大賞にも選出された。

(注4) 水戸黄門や大岡越前——いずれも二〇世紀後半から現在まで放送されている時代劇テレビドラマ。正義が悪党を成敗する筋立てが好評を博してきた。

(注5) 千日手——将棋で、双方が同じ指し手をくり返して勝負のつかない状態。

(注6) デカルト——フランスの哲学者・数学者・自然学者（一五九六～一六五〇）。

(注7) 臓器移植法——医師が移植目的で死体から臓器を摘出することを認め、また臓器の売買や斡旋^{あっせん}の禁止を定める法律。日本では一九九七年に施行された。

* 問題作成の都合により、本文の一部に手を加えてある。

問1 傍線部（ア）～（オ）に相当する漢字を含むものを、各群の①～

⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は

25

21

（ア）コらしめ

21

- ① 履歴書に写真をチヨウフする
- ② 議員をチヨウカイ処分にする
- ③ 世間のチヨウショウを浴びる
- ④ ツイチヨウ金を支払う
- ⑤ 遺族をチヨウモンする

（イ）ケイソウ

22

- ① ケイリヤクをめぐらす
- ② ケイフをたどる
- ③ 進学をケイキに上京する
- ④ 頼もしいケイルイがいない
- ⑤ チヨウケイが家を継ぐ

（ウ）チヨウテイ

23

- ① 広いテイタクに住む
- ② リョウテイで食事する
- ③ 秘密がロテイする
- ④ テイサイを気にする
- ⑤ 梅雨前線がテイタイする

(エ) ショ|ミン

24

- ① 会社のショ|ム課
- ② ユイショ|正しい家柄
- ③ ショ|ハンの事情で欠席する
- ④ ザンショ|の厳しい時期
- ⑤ ショ|グウが改善する

(オ) ダ|トウ

25

- ① ダ|ミンをむさぼる
- ② ダ|サクの評価を受ける
- ③ ダ|キヨウテンをさぐる
- ④ ダ|サンテキな性格
- ⑤ ダ|キすべき行為

問2 傍線部 (i) ～ (v) の本文中における意味としてもっとも適切

なものを、各群の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答

番号は 26 ～ 30。

(i) 「還元される」 26

- ① 帰着させられる
- ② 言い換えられる
- ③ 制約を与えられる
- ④ 元通りにされる
- ⑤ いさめられる

(ii) 「水掛け論」 27

- ① 互いに攻撃的な姿勢にこだわる議論
- ② 表面的な事柄しか扱わない議論
- ③ 互いに尊重し合うことに終始する議論
- ④ 論理の飛躍した発言が飛び交う議論
- ⑤ 論旨がかみ合わないまま続く議論

(iii) 「当該」 28

- ① 広範囲にわたる
- ② 程度の激しい
- ③ そのことに関わる
- ④ 近年話題である
- ⑤ 論争を巻き起こしている

(iv) 「喚起する」 29

- ① 類推させる
- ② 増長させる
- ③ 出自に持つ
- ④ 意識させる
- ⑤ 代用となる

(v) 「早晩」 30

- ① おそらくは
- ② いずれはきつと
- ③ 当然ながら
- ④ 近いうちに
- ⑤ 明日の夜には

問3 傍線部A「今日、倫理という語は、こうした歴史的文脈のなか

にある」とあるが、これはどのようなことか。その説明としてもつとも適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。

解答番号は 31。

- ① 今日における「倫理」は、十八世紀にベンタムの法哲学によって法律から区別された後、社会全体の幸福を増大させる目的で自分の行為を決定するための指針として発展してきたということ。
- ② 今日における「倫理」は、古今東西において報復感情を正当化する目的で整備されてきた多くの法律から、十八世紀以降の西欧を中心に暴力の抑制を目指して抽出されてきたものであるということ。
- ③ 今日における「倫理」は、元来は法律と明確に分離していなかった善悪の観念が、十八世紀の西欧において原則的に法律とは切り離されたものとして扱われるようになって、現代の姿へと至っているということ。
- ④ 今日における「倫理」は、法律に倫理が混入してしまう事例を削減し、意図的に法律に倫理を含ませようとする政治家を戒めるために、十八世紀以降の西欧を中心に生成されてきたということ。
- ⑤ 今日における「倫理」は、報復行為を目的とした倫理観が支配的であった従来の人間社会を反省し、十八世紀の西欧において正義が倫理と合致する法律の実現を目指して定義されたものであるということ。

問4 傍線部B「『応用倫理』という観点」とあるが、これはどのような観点のことか。その説明としてもっとも適切なものを、次の①～

⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 32。

- ① 倫理学における道徳の研究が活発でない状況において、特定の現場や新たな領域で生じ始めている難問を解決するために、再び伝統的な倫理学の活性化を目指そうとする研究者たちの観点。
- ② 脳死判定や人工授精、A Iの使用など、人間の生命と関わる倫理的問題に対して善悪の基準を定め、法律の制定を促す目的で採用された、従来よりも柔軟に倫理を扱おうとする観点。
- ③ キリスト教の信仰が活発なアメリカにおける、新たに生まれてくる生命の扱い方に関して、従来説かれてきた本来の神の教えに沿った倫理観を当てはめて考察するための観点。
- ④ 倫理的な善悪がそのまま法律に反映されてしかるべきだと考えて行われる司法行為を反省し、法律とは区別された倫理の領域を確保するためにアメリカで導入された観点。
- ⑤ 医療や環境問題、A Iの使用などに関する現場で生じている、法律の制定が困難な問題に対して、特定の宗教や政治・経済的利益に傾倒せずに善悪の基準を作成するための観点。

問5 傍線部C「そこで起こった論争の大部分に、いまだ決着がついていない」とあるが、なぜ決着がついていないのか。その説明としてもっとも適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 33。

- ① 応用倫理が適用される現場の関係者同士の合意形成に際して、専門家が提示してきた倫理学説が軽視され、「自分の胸に手を当てて」善悪を判断すれば解決するという考えが優勢であったから。
- ② 応用倫理の議論に基づく法律の制定に関して、関係者がそれぞれの文化の中で培ってきた生の捉え方由来する善悪観に参照したため、倫理学説が用いられることがなかったから。
- ③ 法律の制定に際して応用倫理の議論が踏まえらるべき議題に関して、現場の職業従事者や利害関係者、法律の専門家たちがそれぞれに主張した倫理観が相互に対立しているから。
- ④ 法律の制定に際して専門家が繰り広げてきた応用倫理の議論の蓄積は必ずしも現場の当事者が肯定するものではなく、むしろ特定の個人的主観的な倫理観が多数の人々を納得させたから。
- ⑤ 応用倫理の議論を踏まえた法律の制定に際して、論者たちが幼少期から吸収してきた宗教教義や文化的要因に基づいた、理論的な裏付けのない良心のみに従って論争が行われたから。

問6 傍線部D「規範の根拠や合理性を検討するばかりではなく、そうしたものとしての倫理を見失わないように努めるべきであろう」とあるが、これはどのようなことか。その説明としてもっとも適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 34。

① 「臓器移植法」など、応用倫理の議論が反映された法律の制定は徐々に実現されてきているが、実際に法律を適用する際には当事者がそれぞれに抱いている個人的主観的な倫理観に配慮すべきだということ。

② 合理性を重視した倫理規範であれば誰もが納得するわけではなく、そうした規範を含む宗教や政治、法律、モラルなどに対抗して生まれる倫理があることにも注意を向ける必要があるということ。

③ 倫理規範について考える際には、専門家が納得するような筋道立った規範に見られる合理性だけでなく、「自分の胸に手を当てる」ことで理解される「良心」に内在する合理性にも注目すべきだということ。

④ 倫理に関する議論においては、論理的で筋の通った倫理規範の検討も必要だが、人々が自身の生い立ちの中で獲得してきた、文化や地域に根付いた倫理への配慮も同様に重要であるということ。

⑤ あるべき倫理に関する総合的な考察に際しては、合理的な規範の検討だけでは不十分であり、そうした規範や法律とは離れたものとしての倫理との折り合いがつく中間地点を検討すべきだということ。

問7 この文章の構造に関する説明としてもっとも適切なものを、次の

①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。解答番号は 35。

① ①から④段落では、倫理と法律が区別されるようになった歴史的経緯について、近代西欧における事例を中心に参照することで、現代の倫理に関する議論の文脈的な背景を紹介している。

② ⑤から⑥段落では、倫理と法律が合致するという想定はあくまで理想論であり、実際は双方が合致しないために生み出されている不正や悪事が多く存在することを伝え、直前までの意味段落に補足を加えている。

③ ⑦から⑪段落では、近年高まりを見せている「応用倫理」の議論について、医療現場における事例や宗教的要因と併せて紹介することで、当事者の気持ちが考慮された倫理の必要性を唱えている。

④ ⑫から⑯段落では、直前までの「応用倫理」の議論に基づく法律の制定に関して、論争に決着がついていない状況を紹介し、その理由として関係者や専門家の間で利害が対立していることに言及している。

⑤ ⑰から⑳段落では、「感情」や「直観」に由来する「胸に手を当てて」考える倫理の重要性を訴え、デカルトの「良識」理論を引用しながら、そうした倫理の合理的根拠を提示することで結論につなげている。

問8 次に示すのは、本文を読んだ後に、三人の生徒が話し合っている場面である。本文の趣旨を踏まえ、空欄に入る発言としてもっとも適切なものを、あとの①～⑤の中から一つ選び、マークしなさい。

解答番号は 36。

教師——「倫理とは何か」について考えることの難しさについて、

分かってもらえたでしょうか。法律など規範的な指針がいつでも正解とは限らないという倫理問題に関して、皆さんはどのように考えましたか。

生徒A——私は人それぞれの倫理観や、地域で代々伝えられてきた文化や宗教に基づく倫理を大切にすべきだと思いました。法律で定められた規範であっても、その対象となる私たち人間が納得できないのでは意味がないと思います。

生徒B——でも、それではたくさんさんの倫理が乱立して、倫理同士が対立することにならないかな。現に人間はこれまで宗教を発端とした戦争を幾度も起こしてきたよね。

生徒C——確かに、何でもかんでも倫理として尊重してしまうと、社会が混乱する可能性があるね。大多数の人々の幸福や利益が守られる「公共の福祉」のような原理が、倫理の議論にも必要だと思う。

生徒A——もちろん、闇雲に全ての倫理をそのまま尊重することは問題だと思います。。

生徒B——そうだね、そのような考えはどの時代においても捨て去

られてはいけないものだと思うよ。基準をどこに定めるかによって、どうしても優先されるべきものが大きく変わってしまう。だから、現状のところは、状況に応じて柔軟に判断していくことが最善なのではないかな。

① 応用倫理の議論に基づく法律を制定した後は、一つ一つのローカルな倫理が法律に違反するかどうかについて審査する新たな基準の作成が急がれるべきです

② しかし、そうした乱立する倫理を統制するような法律が制定され、社会に浸透していけば、現在明るみになっている混乱の多くは解消されると思います

③ でも、多くの人々が生活の支えとしてきた倫理が否定されることがあるとしたら、それこそ法律違反だということは良心に問いかけてみれば分かるはずです

④ それでも、合理性が優先された倫理規範が、人々が人生の指針として大切に抱えてきた倫理を侵害してしまうことは避けられるべきだと思います

⑤ 現在施行されている法律や今後政府が制定する法律に抵触するような倫理には、警告を与える、あるいは強制的に改正させるなどの対応が必要だと思います